

講義年月日： 2007年6月11日

講演者： 高橋 智氏（慶應義塾大学斯道文庫准教授）

筒井 利子氏（慶應義塾大学三田メディアセンター貴重書室担当）

テーマ： . 慶應義塾図書館所蔵和漢古書目録作成プロジェクト

. 慶應義塾図書館における和装本研修と和漢古書目録作成プロジェクトについて

講義内容：

. 慶應義塾図書館所蔵和漢古書目録作成プロジェクトについて（高橋 智氏）

1. はじめに

- ・ 図書館員は研究者と大いに交わり図書館を活性化する
- ・ 理想的成果をあげられるかどうかかわからないが、継続的に、所蔵関連資料を多角的に収集し提供できることが使命
- ・ プロジェクト立ち上げに必要なこと
 - (1) プロジェクトを管理運営するコーディネーターが必要
 - (2) 日常業務以外に専門的なプロジェクトを立ち上げる
 - (3) 外部の専門家を招いて研修を行う
- ・ 図書館は大学の中心であり、書物を手に取ることができなければ研究が進まない
- ・ 図書館員は、大学の中心的なところにいるとの自覚が必要であり、学術の基礎を支えている
- ・ 図書を保管している建物（慶應義塾の図書館八角塔）はアカデミックの象徴
- ・ アメリカ・ヨーロッパ・中国の図書館員は、専門家として図書を自由に扱える
- ・ 図書館員は、紀要にすぐれた論文を掲載し、学術を引っ張って行く研究者
- ・ 中国の図書館は、研究員、専門員、図書館員で構成され、研究員は専門分野を担当する
- ・ 海外では専門分野に関する学術書の紹介などを、カウンターで教えてもらえるので図書館員の地位が高い
- ・ 専門職という自覚を持つことで、資料・運営を自然に考える

2. プロジェクト発足の経緯

- ・ 古典籍の数は3万タイトル以上
- ・ OPACには収録されておらず古典籍の独立した冊子目録もない
- ・ 古典籍の未整理カード目録を全てやりなおす
- ・ フォーマットを統一することで将来的にOPACにデータを反映させる
- ・ 率先してプロジェクトを打ち立てる
- ・ 和漢書・古書目録作成のためのプロジェクトメンバーを募集したところ、多くの希望者があった

- ・和装本目録研修の実施
- ・2001年7月から活動

3. 和漢古書目録作成委員会

- ・中国の漢籍を研究する附属研究所斯道文庫の教員と和装本目録研修に参加した図書館員を中心に構成

4. 中国の図書館から学ぶこと、日本の図書館ではどうすべきか

- ・中国図書館では、線装本のみを専門に扱う古籍部という部署が必ずあり、重要視されている
- ・利用者がいる、いないに関らず、線装本、国書等の資料が大事
- ・漢籍をどのように視ていくか
 - 刊本か写本か区別する（出版されたものか手で書かれたものか）
 - 善本か普通本か、貴重かごく普通の本かを区別する
 - 所蔵しているもので、自分の館にとって貴重かどうか判断
 - 情報を基に年代等で判断する
 - の要素を基に、自分で価値観をつくる
- ・1人のコレクションなどはかたまりとして貴重なこともある
- ・中国では、善本、普通本の目録を国家予算でお金を出し、国家レベルで作成した（「中国古籍善本書目」）
- ・目録とは、今必要とされている資料を識別するものであり、整理し並べ判りやすくする事は図書館員の任務である
- ・中国では全国から何千人も参加し、自館のデータを提出し、専門家の検証の後一つの目録として出版された
- ・図書館員が動かなければ、専門家は動かない
- ・自ら資料を発掘し提供する
- ・資料を活かせば研究成果が出る
- ・中国ではグローバルで友好的な活動をしているが、何故、日本ではできないのか
- ・日本では活動がはっきりせず、停滞している
- ・一つ一つの小さなプロジェクトが大事
- ・資料のどういうところに目をつけ、大きな枠組みを図書館に即して行うか
- ・マニュアルの必要性
- ・学生の教育に必要というだけでなく、公共の文化財としてまとめて保存、伝えていくことが大事
- ・図書館を活かし、活力を与える

・慶應義塾図書館における和装本研修と和漢古書目録作成プロジェクトについて

(筒井 利子氏)

1．和装本研修について

- ・研修者の公募は2000年6月に実施
- ・募集人員は3名で、貴重書室、ILL、マルチメディア担当部署から1名ずつ
- ・教員から和装本の知識を得る。講師は斯道文庫所属の教員
- ・図書館員と研究者との協力をもとに発足
 - 1回～10回 講義形式
 - 15回～25回 目録実習
- ・自分なりに目録をとる

2．プロジェクトについて

- ・OPACに入力されていない国書・漢籍の目録をとる
- ・図書館員と研究者の協同作業
- ・NIIでは刊写年の情報がない場合“刊写年不明”とするが、刊写年が大事であるので、できるだけ調査し“不明”とはせず、おおよその年代を記載することとする
- ・フォーマットもOPACに合わせる
- ・冊子体もつくる
- ・データシートの作成
- ・原物通りに入力できないなど文字コードの問題がある
- ・収録対象は、漢籍1911年以前、国書1867年または1868年以前の和装本
- ・マニュアルにそって作業すれば、誰でも目録をとることができ、そのまま引き継げるマニュアルを作成